

福岡インターナショナルトレーニングセンター 整備事業基本・実施設計業務委託

1 標準業務

- (1) 福岡インターナショナルトレーニングセンター開設に向けた、福岡県立スポーツ科学情報センターの改修整備に関する建築計画
- (2) 上記工事に伴う外構、付帯工事の設計
- (3) 上記建築工事に付随する設備工事一式の設計

2 設計と条件（その他条件）

<改修整備方針について>

福岡県スポーツ推進計画において県が掲げる「スポーツ立県福岡」の理念に基づき、「県内アスリートが海外アスリートと国を超えて共に活動できる人材育成の場」を創出することを目的に福岡県立スポーツ科学情報センターを改修し、令和10年度を目標に国内最高峰のインターナショナルトレーニングセンター（以下ITC）として開設することとしている。福岡ITC整備に当たり、基本計画で掲げている3つのコンセプトである「育成・強化」「交流」「発信」の強化に基づいた改修を行う。以下改修項目を列挙する。



(1) 育成機能の強化

① トレーニング・測定機能の強化

●1F：測定室の拡張・改修

測定室のエリアを拡張する。また、通路側の壁面をガラス張りとし、外壁面に搬入口を設ける。

●1F：アスリート専用機能の整備

アスリートの利用動線を確保し、高度な測定・トレーニングを一体的に行う空間を創出するため、測定室内にアスリート専用トレーニングエリアを整備する。アスリート専用トレーニングエリアには、アスリートの専用出入口及び受付を設けること。また、高重量・衝撃に対応した床改修を行うこと。

●1F：リカバリー・実験機能のコンディションエリアを導入

測定室内に「環境制御室（高地・人工気象等のシミュレーション空間）」を設置。

測定室の一部に、疲労回復用の「酸素カプセル」および「交代浴設備」の設置スペース及び配管等を整備。また、シャワールームや専用トイレの設置、更衣室の配置の見直しを行う。

●2F：アリーナ機能の高度化

メインアリーナ：測定カメラ（4箇所＋天井）、常設スクリーン（2箇所）及び可動間仕切り（競技間の視線やボールの交差を防ぐ電動間仕切り）設置

※上部は空調や採光を考慮し、網状等の透過性を持った仕様も可

サブアリーナ：測定カメラ（天井）、常設スクリーン（1箇所）の設置

② 栄養機能強化

アスリート向けの食事提供・栄養指導に対応するため、厨房の壁を一部撤去してオープンカウンター化し、厨房設備を含んだ改修を行う。また、調理・提供効率を高める動線を整備すること。

③ 休養・宿泊機能の高度化

●3F：疲労回復機能に特化した宿泊室への改修

海外アスリート等の長期滞在に対応するため、プライバシーと居住性を高める改修を行う。バリアフリー室については、個別空調化を行い、独立したコンセント回路を3回路（通常用、非常用、照明用）設ける。その他の部屋については、コンセント回路を2回路（通常用、照明用）設ける。全室防音（遮音）化、独立したユニットシャワー・トイレの設置。また、宿泊室の1室は宿直室として、監視可能なLAN配線を整備する。

●3F：宿泊室給湯システムの更新

利用集中時においても、十分な温水が安定して供給可能な給湯設備・配管の更新又は容量見直しを行う。

(2) 交流機能の強化

国内外のアスリートの交流の場

●内部：アスリートラウンジの設置

1F エントランスホール内を活用し、アスリート同士及び宿泊者間の交流を促すラウンジを整備する。

●外部：屋外広場の整備

本施設を象徴するような館名サインもしくはモニュメントを設置する。

(3) 発信機能の拠点化

スポーツの情報発信機能の強化の拠点

●施設全体：インクルーシブデザイン・多言語サインの整備

国内外の利用者が直感的に移動できるよう、館内サインを多言語対応へ更新

●1F：エントランスの刷新

エントランスエリアに情報発信機能を集約し、来館者のアイキャッチとなる「大型ビジョン」を設置

●外部階段周辺：ウェルカム・情報発信壁面のデザイン

外部階段まわりの壁面を活用し、施設のシンボル性や情報発信力を高める掲示物・壁面デザインを整備する。

●管理機能：事務室エリアのOAフロア化

拠点化に伴うスタッフ増員や業務拡張に対応するため、事務室エリアの拡張及びレイアウト変更を行う。

(4) その他

① 修繕・老朽化対応

●外部照明ポール（水銀灯）の撤去及び設置又は更新

●外部階段の安全対策

外部階段のすべり止め対策（防水・タイル改修）、正面中央階段付近のスチール製手すりの更新及び新設

●2F サブアリーナの床改修

●2F サブアリーナ天井スピーカーの改修

●2F サブアリーナ出入口付近の天井の雨染み部分の修繕

●1F 厨房付近のエキスパンションジョイント金物の改修

●EV ホールの天井雨染み修繕

●その他工事対象範囲の天井雨染みの調査を行い、修繕する

② バリアフリー化

●外構：1F エントランスへのアプローチ動線

車椅子利用者や足腰の不自由なアスリート及び来館者が、安全かつスムーズにアクセスできるバリアフリー動線を整備する。

●正面中央階段付近及び体育研究所横エリアのスロープ設置

同エリアの段差等を改良し、体育研究所横のスロープは屋根を設置する等して、雨天時でも安全に移動できるバリアフリー動線を強化する。

3 基本・実施設計における主な検討事項

「福岡インターナショナルトレーニングセンター基本計画書（令和8年6月策定）」に基づいて検討を行うこと。

4 必要諸室・面積

必要諸室等については、以下のとおり

				面積はおおよその目安を記載
	改修エリア	室名	面積(m ²)	備考
1F	アスリートコア (旧測定室)		975	廊下等含む
	パフォーマンスゾーン		685	
		アスリート専用トレーニングエリア	175	パワーラック、ダンベルベンチ等
		測定エリア	470	(現在使用している機材関係) 身長体重脂肪計、体制分分析装置、血圧計、肺活量計、心電図検査機、スープリュームビジョン、骨密度測定器、全身持久力測定器、個人全身持久力測定器、ステッピング測定器、無酸素パワー測定器、短関節筋力測定器、フォースプレート、垂直跳び測定器、圧力測定器、背筋力測定器、全身反応速度測定器、四方位反応速度測定器、反復横跳び測定器、R D J 測定器
		環境制御室	40	機械室含む
		サポートオフィスゾーン	43	
		映像分析室	8	測定したデータや映像の閲覧を行うPC台、データ保管用の収納棚を設置
		医務室	10	医療従事者の事務作業を行う机椅子、要介護者が使うベッド1台を設置
		スタッフ室	10	椅子、ロッカー
		ミーティングルーム	15	
		面談室	8	
		コンディショニングゾーン	157	
		コンディショニングエリア	75	マット適宜、マッサージベッド適宜、テーブル適宜、その他アスリートのコンディショニング維持のための機器を設置
		シャワー室	12	シャワーユニット約3m ² ×4
		脱衣室	10	個室約2.5m ² ×4室
		ロッカー	13	6.5m ² ×2
		WC	4	2m ² ×2
		交代浴コーナー	30	温水槽1、冷水槽1
		濾過室	6	交代浴の循環浄化用
		車椅子更衣室	7	
		その他	30	
		倉庫スペース	30	測定エリア内の一角に可動間仕切り等で仕切り利用
		エントランスホール	270	
		アスリートラウンジ	270	
		ホール	-	大型ビジョン ※ 機器等設置及び、照明塔撤去に関わる補修等
		レストラン	110	
		厨房	110	
	事務室	278		
	事務室	250	事務室・所長室・役員室の3室を一室にして事務室化	
	センター長室	28	旧講師控室・応接室	
2F	メインアリーナ		7	
		映像分析室	7	スクリーン設置 (2箇所)、測定カメラの設置 (4箇所+天井) ※ 機器等の設置のみ
		映像分析室	7	測定したデータや映像の閲覧を行うPC台、データ保管用の収納棚を設置
	サブアリーナ		945	
			930	スクリーン設置 (1箇所)、床の張り替え、測定カメラの設置 (天井)
		映像分析室	15	測定したデータや映像の閲覧を行うPC台、データ保管用の収納棚を設置
3F	宿泊室		1,245	
		バリアフリー対応宿泊室	180	5室
		シャワー別室宿泊室	821	28室
		宿直室	29	1室 (監視可能なLAN配線の整備)
		廊下・EVホール	215	スロープの設置、タイルカーペットの更新
屋外	屋外広場		2,730	
合計			6,560	

5 設計・工事スケジュール

※以下のスケジュールは想定であり、今後変更の可能性がある

基本・実施設計 : 契約後～令和9年3月31日

発注事務 : 令和9年7月～12月 (約6か月)

工 事 : 令和10年1月～令和10年12月 (約12か月)

日程	R8年度		R9年度			R10年度	
月	9	10～3	4～6	7～12	1～3	4～12	1
		基本・実施設計 ※11月上旬 設計方針提出 ※11月中旬 パース図1回目 (外観・内観) 提出 ※12月下旬 概略工事費・工程表提出 ※3月上旬 パース図2回目 (外観・内観) 提出	納品	発注事務		本工事 (約12ヵ月)	

6 留意事項

- ・本業務の遂行にあたっては、各関係者（設計担当者及び施設管理者）を交えた会議を定期的開催し、基本計画の主旨の確認、要望事項等の整理・取りまとめを行い、設計内容に反映させること。
- ・建物及び外構の各仕様（外観・内観）の検討にあたっては、随時、検討パース（外観・内観）を作成し、各関係者とイメージの共有を図ること。
- ・全ての計画において各種法令・基準等に適合するものとし、関係部署と事前協議等を行うこと。
- ・周辺環境を考慮した建物・外構計画とすること。
- ・基本・実施設計報告書とは別に基本・実施設計報告書の概要版（A3版1～3枚程度）を作成すること。
- ・本業務において知り得た情報を秘密として保持し、委託者の承諾なくして公表もしくは第三者に漏洩してはならない。契約期間満了後においても、有効に存続する。
- ・大規模改修工事が予定されているため、別途委託の設計事務所と協力し進めること。
- ・本工事は工区分けを行う可能性があるため、工区分けの有無を含め、設計担当と協議を行うこと。

7 その他

- ・予算の範囲内で経済的な設計を行い、上記に示すスケジュールは厳守すること。
- ・維持管理に配慮した設計を行うこと。
- ・業務着手前に、業務の工程表を必ず提出すること。
- ・「国土交通省公共建築工事積算基準」内の共通費算定を考慮し設計すること。
- ・設計に際し必要となる現況調査を綿密に行うこと。

- ・プロポーザル方式により設計業務を受託した場合には、技術提案書により提案された履本業務において施設側との協議等を踏まえ、適宜変更する。
- ・一部施設（事務室）を利用しながらの工事となるため、施設管理者と協議の上、適切な仮設計画、工事工程、ローリング計画等の検討を行うこと。
- ・仮設計画は、以下の事項を施設側に確認を行い、図面に参考図として明記すること。

【図面に明記する仮設計画の例】

仮囲い、工事車両ルート、交通誘導員、資材・機器の搬出入ルート、資材置場、監督員事務所、現場事務所、仮設便所、仮設水道・電気、その他工事実施に必要な仮設物

- ・工事工程は、4週8休で検討すること。また、猛暑による作業日数を考慮すること。
- ・本委託で設計を行った案件については、工事発注時に監理業務委託予定である